

小学校

— 体育大会への取り組み —

# 力を出しきれ！ひとつづつになって

## ■ 組団対抗か四色対抗か

例年十月に行っている体育大会を、今年六月に行いました。夏休みから校舎の改修工事が始まり、運動場には仮設の校舎が建てられることになったからです。そのため子どもたちと話し合いながら、次のようにしました。

☆入学もない一年生や、クラス替えのあった三年生と五年生のことを考え、毎年の四色対抗でなく、一組対二組対三組の各組団対抗で行う。

☆暑い時期なので時間短縮をはかるためプログラムを減らす。

## ■ 高学年が中心になる 体育大会づくり

選出された六人の児童委員がテーマを考え、企画を練り、体育大会づくりを進めます。さらに五・六年生が、応援・宣伝・ワッペン・デコレーション・パレード・旗の各委員に分かれて仕事をしました。

例えば応援委員は、組団の前で大き

な声で応援するために、新しい応援歌をつくりました。ワッペン委員は、体操服にぬいつけるワッペンのデザインを考え、組団の約二〇〇人分を切り取りました。

## ■ 新記録をめざす

約一カ月にわたってさまざまな準備をし、いよいよ当日を迎えました。予定していた六月一日(日)はあいにくの雨で、三日(火)の開催となりました。平日にもかかわらずたくさん保護者の応援があり、これ以上ない晴天のもとで体育大会を行うことができました。

プログラムは、各学年のリレー、低・中・高の二学年によるブロック競走が中心です。

昨年度から、練習時のリレータイムを記録しておき、当日どれだけ速くなったかを紹介しています。順位にこだわるあまり、負けそうになると力を抜くということがこれまで時々見られましたが、新記録をめざすことが子どもたちのもうひとつの目標になり、どの子どもも全力でがんばっており、子どもたちが精一杯走る姿には、



本当に感動を覚えました。

三組の総団長をつとめた高橋翔太君は、日記に次のように書きました。「…クロバーリレーは五年で三位になってがんばったが、一位にはなれなかった。それでも新記録が出た。一位になれなかったくやしきは、どの競技にもあったが記録が出た喜びもどの競技にもあった」と。

また、児童委員の水野良祐君は、「…ぼくは、クラスごとの仲間、とても深まったし、体育大会をやって本当に良かったと思う。そして何より



児童委員として、はじめの言葉や表彰、放送など、いろいろな仕事をしてとても楽しかった。だから、「もう一度やりたいな」とすごく思う。体育大会、成功できて本当によかった」と、十三ページにわたる日記をしめくりました。

退場行進の時、どの子どもも体育大会をやりとげた喜びと自信で、顔を輝やかせていたのが印象的でした。

附属小学校・教諭 綿鍋 美和子

# 生徒を中心に据えた 新しい学校行事をめざして

附属中学校・副校長 人見 功

## ■春は宿泊行事から

附属中学校は、行事の取り組みを大切にしている。

そのひとつに宿泊行事があり、入学式が終わると、各学年は、長年続けられているこの行事に向けて、本格的な活動に入る。

いろいろな場所や内容は変化しているが、現在では、一年生は曾爾高原での野外活動、二年生は三重県答志島周辺での臨海学習、三年生は長野県・岐阜県、松本市・乗鞍高原・上高地・高山市での高原活動と地域学習を実施してきている。

これらは、附属中学校が先輩の先生方から、下見や学習内容の吟味に対するノウ・ハウを受け継いできており、今年も、幸いなことに、三年生とも好天の中で、無事行事を終えることができた。



## ■三年 修学旅行

三年の修学旅行は五月二十七日～三十日の三泊四日である。

一日目は、松本周辺での学級ごとに計画した地域・体験学習。学年による内容変更可能な取り組みである。夕方には乗鞍高原に入った。

二日目は、登山がメインの高原活動を。個人としては、いろいろな高原活動をほとんど経験している。

三日目は、上高地から高山へ。これもグループ活動で、生徒達の希望をできるだけ生かすようにしている。

四日目は、高山市内見学。朝市をはじめとして、陣屋など見学場所も多い。

## ■二年 臨海学習

二年の臨海学習は六月二日～四日の二泊三日である。

学習の色彩の最も強い行事で、一日目は鳥羽の海の博物館見学。夜は、社会科の漁家訪問によるインタビュー学習。

二日目は、理科の浮島での磯観察・採集学習。



三日目は、鳥羽周辺でのグループ別の地域・体験学習。学年による内容変更可能な取り組みである。今年も、答志島での魚釣り体験と漁師さんの話を聞く学習、鳥羽博物館見学学習、伊勢型紙体験学習、海の博物館の貝染め体験学習であった。

## ■一年 曾爾高原の野外活動

一年の野外活動は六月六・七日の二泊二日である。

## ■新しい学校行事をめざして

今回の「総合的な学習の時間」の設定で、全国的に従来の学校行事は減少傾向にあり、新しいイベント型の総合学習の取り組みが増えているように思われる。

私たちは、かつてから教科学習を核に据え、その発展学習としての位置づけである行事の取り組みを大切にしてきた。その中にグループ活動や個人活動も重視して、子どもたちの成長に寄与してきたものと思っている。

しかし、長く続いた学校行事について今、仕立て直しを考える時期にも向かってきている。もちろん宿泊行事も、この中に入っており、研究・見直しを進める中に、若い先生方の新しい感覚を取り込み、先輩の先生方のノウ・ハウに学びながら、よりよい方向を求めていこうと考えている。



一日目は、俱留尊山から西浦峠の健脚コースの高原活動。夜はキャンプファイアー。二日目は、野外炊事。昨年から大学の岡村先生と学生さんたちの協力を得て、野外活動が充実してきている。

幼稚園

# 親子で育つ幼稚園をめざして

附属幼稚園・副園長 比留間みどり

## 子育て真っ最中の お母さんを支えるために

家庭から出て、子どもたちが多くの友だちと初めて出会う場所、それが幼稚園です。幼稚園では子どもたちは友だちとの遊びを通して、体験的に様々なことを学んでいます。一方で、子どもたちを毎日送迎している幼児の保護者にとっても、幼稚園は、多くのお母さん同士の、関わりのある場であるといえます。

ひと昔前までは、家庭や地域社会での生活の中に、様々な人との関わりがありました。子育てにも多くの人々の支えがありました。しかし、今日では核家族化や少

子化など、様々な社会環境の変化に伴って家庭が孤立化し、子育ても母親が一人で頑張っていることが多いようです。

思うようにいかない毎日の子育てに、迷ったり不安を感じたりしている母親も増えています。その一方で、家庭教育の重要性が強調され、親の責任を問う声も大きい社会的な状況があります。

そこで附属幼稚園では、教育環境を整え、ひとり一人の幼児の発達にふさわしい保育実践をすすめるだけではなく、子育て真っ最中のお母さんを支える様々な取り組みもしています。

毎週水曜日の降園前のひとときには「保育室降園」といって、母と子で触れ合っ

それでは子育てにおける父親の役割は何でしょうか。専業主婦の多い本園の実態から、直接子育てにかかわるの

## お父さんの 懇談会・日曜参観日



親の子育ての力強い支えとなり、両親が協力して子育てに取り組んでほしいと願っています。

そこで附属幼稚園では、日曜に参観日や懇談会を設け、なるべく大勢のお父さんに幼稚園へ足を運んでもらえるようにし、お父さんに幼稚園や子育てへの理解を深めてもらおうとしています。今年、「お父さんだけの懇談会」を企画してみました。

父親ひとり一人が自分の子育てについて語り合ったり、父親同士が互いの悩みに共感したりと、父親が自分自身の子育てについて振り返るよい機会になったようです。また、話し合いの中から、父親の家族への熱い思いを感じること

ができました。

六月の日曜参観日には、お父さんと子どもが、戸惑いながらも嬉しそうな表情で一緒に手をつないで登園する姿が多くみられました。幼稚園に来るのは初めてで、子どもに導かれて、我が子の保育室にたどりついたお父さんもいたようです。

幼稚園では、子どもたちが友だちと思い思いに遊ぶ姿を見たり、親子が互いに触れ合いながら遊ぶ歌遊びを楽しんだり、風車づくりを手伝ったりして、園生活の楽しさを子どもと一緒に味わっていたようです。

幼稚園での様々な体験をとおして、子どもと心を通わせる心地よさを再確認したお父さんも多かったのではないのでしょうか。

## 親も子も教師も育つ 幼稚園をめざして

子育ては家庭や幼稚園の中だけでなく、地域社会など、子どもを取り巻く多くの人々との関わりの中で営まれています。これからも様々な人との関わりを大切に、子どもと共に保護者も教師も一緒に成長していける幼稚園でありたいと考えています。

